

# 信託期間の5年延長を決定

日本ニューテクノロジー・オープン(愛称 地球視点)  
追加型投信/国内/株式

2020年9月14日

- 「日本ニューテクノロジー・オープン(愛称 地球視点)」(以下、当ファンド)において、ニーズの高さと好パフォーマンスから**信託期間を5年延長**しました。
- 新しい償還日は、**2025年12月15日**となります。
- 10,000円**でスタートした当ファンドの**基準価額は、今年8月末に16,275円**となりました。
- 設定来、合計で10,000円(税引前)の分配金**をお支払いしております。これも加味した**分配金再投資基準価額は、設定日から201.7%上昇(約3倍)**し、同期間のTOPIX(東証株価指数)の上昇率**79.2%**を大幅に上回りました(今年8月末まで)。

## 1. 設定来のパフォーマンス

2010年12月28日に10,000円で運用を開始した当ファンドの基準価額は、今年8月末に16,275円となりました。

設定来、合計10,000円(税引前)の分配金をお支払いしています。分配金を分配時に当ファンドに再投資したものと計算した**分配金再投資基準価額は、今年8月末時点で30,000円**を超えております。設定時に投資していれば、**約10年間で投下資金が約3倍に成長**したことになります。

当ファンドの設定日から、今年8月末までの**分配金再投資基準価額の上昇率は201.7%**でした。一方、国内株式市場の代表的な指数である**TOPIXの、同期間の上昇率は79.2%**でした。

この間、AI(人工知能)、5G通信、EV(電気自動車)、IoT(モノ)のインターネット、ドローン、自動運転、多層化半導体、量子コンピューター、抗体医薬、ゲノム編集、FinTech(ITを活用した金融分野での技術革新)など、様々なテクノロジーが注目を浴びてきました。**ニューテクノロジーに溢れた世の中**とすることができるともいえます。こうした中、当ファンドでは、**ニューテクノロジーに着目し、その時々投資環境や相場状況を踏まえた銘柄選別**を行い、基準価額の上昇に努めてまいりました。その結果が、約10年間で約3倍という投資成果につながったものと捉えております。

図表1. 設定来の基準価額の推移と分配実績



※基準価額は1万円当たり、信託報酬控除後です。  
※分配金再投資基準価額とは、期間中の分配金(税引前)を当該分配金(税引前)が支払われた決算日の基準価額で再投資したものと計算した基準価額です。  
※分配金は1万円当たり(税引前)です。  
※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

図表2. 設定来のTOPIXの推移



(出所) Bloombergのデータより岡三アセットマネジメント作成

### ＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、「日本ニューテクノロジー・オープン(愛称 地球視点)」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はおお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

日本ニューテクノロジー・オープン(愛称 地球視点)  
追加型投信/国内/株式

絶大な長期投資の複利効果

設定来、各年の基準価額騰落率とTOPIX騰落率、およびその差を図表3にまとめました。TOPIX対比での勝敗(図表の差の数値)を見ますと、

- ・ 10%以上勝った年が3回(2013,2017,2020年)
  - ・ 負けた年は3回(2011,2015,2018年)
- であることが分かります。つまり、**コンスタントに勝っているわけではない**ということです。

さらに注目していただきたいのは、表の「単純合計」と「複利累積」の数値です。当ファンドは、単純合計(各年の騰落率を単純に加算)145.7%に対し、乗算して累積計算した数値は201.7%に達します。この差は**長期継続投資による複利効果**です。この複利効果が大きいと、設定来でのTOPIXとの差は122.5%にも達しています。**短期間での勝敗に一喜一憂せず、長期で継続投資することが大切**であることを、当ファンドの過去の運用実績が示していると考えます。

2. 年初来の運用経過

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受けて、2月下旬から3月下旬にかけて、国内株式市場は急落し、当ファンドの分配金再投資基準価額も、この影響により概ね市場平均と同程度下落しました。

しかし、**相場のボトムからの回復局面において大きな差が出ました**。株式市場全体では、まだコロナ前までに戻りきれていませんが、当ファンドの分配金再投資基準価額は、コロナ前の水準を上回っています。**年初来8月末までの騰落率は、TOPIXの▲6.0%に対して、当ファンドは+9.2%となりました。**

図表4は、年初来の当ファンドの基準価額変動にプラスに寄与およびマイナスに影響した各上位10銘柄です。寄与度トップのウエストホールディングスは太陽光発電、2位のジャストシステムはソフトウェア、3位のレーザーテックは半導体製造装置、4位のヤーマンは美容機と、事業内容は多岐にわたっています。当ファンドが年初来の市場平均を上回るパフォーマンスを上げられた要因の一つとして、**幅広い分野から有望なテクノロジー関連銘柄を発掘してファンドに組み入れた効果**があったと考えています。

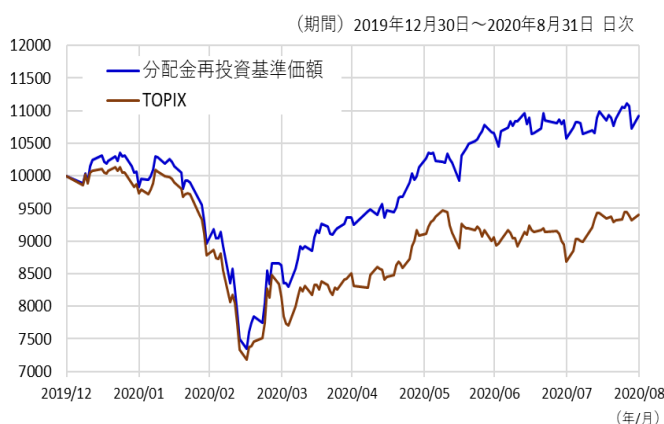
一方、マイナスに影響した銘柄は、電子材料(トリケミカル研究所、扶桑化学工業、東京応化工業)や、半導体製造装置(日本電子、アドバンテスト、ディスコ)など、半導体関連の銘柄が多かったことが特徴です。

図表3. 各年別騰落率の推移

	当ファンド	TOPIX	差
2011年	-20.4%	-19.3%	-1.1%
2012年	19.6%	18.0%	1.6%
2013年	79.1%	51.5%	27.7%
2014年	16.6%	8.1%	8.5%
2015年	8.4%	9.9%	-1.5%
2016年	0.7%	-1.9%	2.5%
2017年	32.3%	19.7%	12.6%
2018年	-19.7%	-17.8%	-1.9%
2019年	19.9%	15.2%	4.7%
2020年	9.2%	-6.0%	15.2%
単純合計	145.7%	77.4%	68.2%
複利累積	201.7%	79.2%	122.5%

(注) 各年の騰落率は、前年末から当年末の騰落率です。ただし、2011年の数値は、設定日(2010年12月28日)から2011年末までの騰落率、2020年の数値は2019年末から2020年8月末までの騰落率です。なお、差は四捨五入の関係で合わない場合があります。  
(出所) Bloombergのデータにより岡三アセットマネジメント作成

図表4. 年初来の分配金再投資基準価額とTOPIXの推移



(注) 2019年12月30日を10000として指数化  
(出所) Bloombergのデータより岡三アセットマネジメント作成

図表5. 当ファンドの基準価額に寄与した主な銘柄

プラス寄与上位10銘柄	マイナス影響上位10銘柄
1 ウエストホールディングス	1 日本電子
2 ジャストシステム	2 トリケミカル研究所
3 レーザーテック	3 T D K
4 ヤーマン	4 ソフトバンクグループ
5 エムスリー	5 太陽誘電
6 中外製薬	6 アドバンテスト
7 富士通	7 扶桑化学工業
8 ニューラルポケット	8 メドレー
9 オリンパス	9 ディスコ
10 S H I F T	10 東京応化工業

(期間) 2020年1月～2020年8月末

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、「日本ニューテクノロジー・オープン(愛称 地球視点)」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様自身で行っていただきますようお願いいたします。

### 3. コロナに強いテクノロジー株

図表6は、8月末時点における当ファンドでの上位組入銘柄の年初来リターンを示したものです。コロナ禍において**全体相場が下落した期間でしたが、上昇した銘柄も数多くあったことがお分かりいただける**と思います。

コロナ禍で多くの産業・企業が業績への悪影響を受けた一方、テレワーク（在宅勤務）や、学校におけるオンライン授業の普及により、ノートパソコンや通信機器・設備、データを保存するサーバー、ソフトウェアといった**情報テクノロジー製品**の需要はむしろ高まったのです。

情報テクノロジー製品が、コロナ禍における環境の変化への対応で使われるとすれば、**コロナと直接戦う武器が医薬品や医療機器、衛生用品などのヘルスケア製品**です。医療機関がコロナ患者の対応に追われたため、医療関連製品の一部では一時的に需要の落ち込みがみられましたが、株価は概ね堅調に推移しています。図表6の銘柄では、オリンパス(内視鏡)、第一三共(医薬品)、エムスリー(医薬情報提供サービス、創薬治験支援)などの銘柄が該当します。

**コロナへの対応でも、コロナと戦うためにも、テクノロジーが果たす役割は大きく、総じてテクノロジー関連株は、コロナ禍に強い特長を有している**と考えています。

### 4. 運用方針

#### テクノロジーこそが経済成長のドライバー

18世紀後半にイギリスで始まったと言われる産業革命以来、蒸気機関、自動車、電気、石油化学、原子力、半導体、インターネットなど新しい科学技術（＝テクノロジー）の発見・発明と産業への応用によって、今日の豊かな社会が作り上げられてきたと捉えています。いわば、**新しいテクノロジーこそが経済成長＝富を産み出すエンジン**だと捉えているということです。

#### テクノロジー分野に成長性が偏在

人口が増加し、全体的な労働生産性が伸びる局面では、総需要の増加を通じて、多くの産業・企業がその恩恵にあずかることが見込まれます。しかし、人口が増えず、労働生産性の改善余地が限定的になってくると、**多くの分野が成熟する中で一部の分野だけが成長する**、といった**経済成長パターン**に変わってくるのではないかと考えています。この一部の分野がテクノロジー関連分野であり、当ファンドでは、ここに焦点を当てた運用を行うことで、長期で高いリターンを目指してまいります。

#### 銘柄選別：テクノロジーで「富」を産み出せる企業に注目

テクノロジー株への投資において重要なことは、技術の斬新さや革新性、最先端であるかどうかといった技術的側面にとらわれ過ぎないことだと考えています。いくら最先端の技術を有する企業であっても、それを収益につなげられなければ、投資対象として魅力的ではないからです。優れた技術を「富」に変換するには、設備投資を行う資金力、買い手にとどける販売力、適正な価格で買ってもらえるブランド力などの非技術的な要素（＝広い意味での経営力）が鍵になる場合があります。当ファンドでは、**企業の経営力にも着目し、テクノロジーを使って「富」を産み出せる企業に投資**する考えです。

図表6. 上位組入銘柄の年初来リターン

	証券コード	銘柄名	リターン
1	1407	ウエストホールディングス	110.0%
2	6630	ヤーマン	90.1%
3	7733	オリンパス	24.9%
4	4369	トリケミカル研究所	14.4%
5	4568	第一三共	31.3%
6	6594	日本電産	19.4%
7	4307	野村総合研究所	21.4%
8	6758	ソニー	12.7%
9	4686	ジャストシステム	32.8%
10	4368	扶桑化学工業	11.7%
11	9449	GMOインターネット	38.4%
12	4062	イビデン	28.7%
13	9984	ソフトバンクグループ	39.6%
14	7701	島津製作所	-7.5%
15	2413	エムスリー	86.3%
16	3697	SHI FT	53.8%
17	6367	ダイキン工業	30.0%
18	6976	太陽誘電	-14.4%
19	7974	任天堂	31.6%
20	3923	ラクス	41.4%

(注) 8月末時点における組入比率が高い順に並べています。リターンは、分割や配当を加味したトータルリターン（年初来8月末まで）を表示しています。ただ、上記の銘柄を年初時点で保有していたとは限りません。

(出所) Bloombergのデータより岡三アセットマネジメント作成

#### ＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、「日本ニューテクノロジー・オープン(愛称 地球視点)」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はおお客様自身で行っていただきますようお願いいたします。



日本ニューテクノロジーオープン(愛称 地球視点)  
追加型投信/国内/株式

現在、当ファンドでは、主に以下の4つの分野に注目しております。

**エレクトロニクス**

主に電子材料、半導体製造装置、電子デバイスの分野で高い競争力を有していると判断した企業に注目しています。

**情報サービス**

企業、官公庁、学校などのIT投資拡大の恩恵が見込まれる企業、IoTやAI関連製品の販売を伸ばしている企業などに注目しています。

**インターネット**

テレワークやネット通販の普及など、人々の活動パターンの変化から生まれる新たな需要に応えるサービスを提供している企業に注目しています。

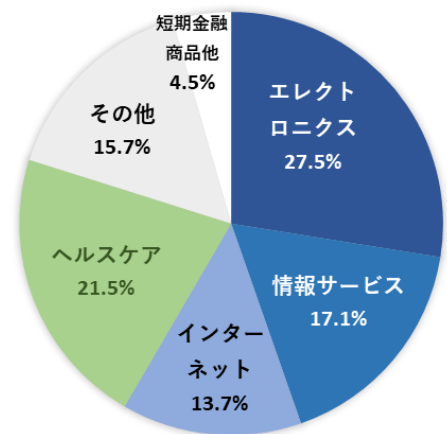
**ヘルスケア**

新型コロナウイルスの感染拡大を抑制するために需要が増加している衛生用品メーカーや、医薬品、医療機器や医療機関向けサービス事業者に注目しています。

**その他**

投資対象を必ずしも上記4つの分野に限っているわけではなく、上記以外からも、再生可能テクノロジーや、FA(ファクトリー・オートメーション)テクノロジーなどの分野の銘柄を組み入れています。

図表7. 当ファンドの分野別組入状況  
(2020年8月31日現在)



(注)比率は、当ファンドの純資産総額に対する比率です。  
なお、区分は当社が独自に設けたものです。

運用状況

(作成基準日：2020年8月31日)

基準価額	16,275 円
純資産総額	2.5 億円

※基準価額は1万円当たりです。

最近5期の分配金の推移		
第15期	2018/6/15	800 円
第16期	2018/12/17	500 円
第17期	2019/6/17	400 円
第18期	2019/12/16	500 円
第19期	2020/6/15	500 円
設定来合計		10,000 円

※分配金は1万円当たり、税引前です。  
運用状況等によっては分配金額が変わる場合、或いは分配金が支払われない場合があります。

ポートフォリオ構成比率	
株式	95.5%
(国内株式)	(95.5%)
(内先物)	(0.0%)
短期金融商品その他	4.5%
組入銘柄数	40銘柄

※当ファンドの純資産総額に対する比率です。

騰落率	1か月前	3か月前	6か月前	1年前	3年前	設定来
分配金再投資基準価額	3.25%	7.71%	21.92%	22.54%	21.83%	201.70%

※騰落率は、1か月前、3か月前、6か月前、1年前、3年前の各月の月末および設定日との比較です。  
※分配金再投資基準価額の設定騰落率は、1万円当たりの当初設定元本との比較です。  
※当ファンドは、特定の指数に連動する、または上回る運用を目指していないため、特定のベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

国内株式市場別組入比率(純資産比)					
市場	東証第1部	東証第2部	その他市場	ジャスダック	マザーズ
組入比率	74.0%	1.3%	0.0%	7.1%	13.1%

組入上位10業種	
1 情報・通信業	30.9%
2 電気機器	21.2%
3 精密機器	11.0%
4 化学	10.4%
5 機械	6.2%
6 建設業	5.8%
7 医薬品	3.8%
8 サービス業	2.4%
9 その他製品	2.3%
10 小売業	1.7%

組入上位20銘柄			
1 ウエストホールディングス	5.8%	11 GMOインターネット	2.8%
2 ヤーマン	5.5%	12 イビデン	2.6%
3 オリノバス	4.2%	13 ソフトバンクグループ	2.6%
4 トリケミカル研究所	3.9%	14 島津製作所	2.5%
5 第一三共	3.8%	15 エムスリー	2.4%
6 日本電産	3.5%	16 SHIFT	2.4%
7 野村総合研究所	3.4%	17 ダイキン工業	2.4%
8 ソニー	3.3%	18 太陽誘電	2.3%
9 ジャストシステム	3.2%	19 任天堂	2.3%
10 扶桑化学工業	2.8%	20 ラクス	2.2%

※各比率は当ファンドの純資産総額に対する比率です。

(作成：運用本部)

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、「日本ニューテクノロジー・オープン(愛称 地球視点)」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様自身で行っていただきますようお願いいたします。

## 日本ニューテクノロジー・オープン(愛称 地球視点)に関する留意事項

### 【岡三アセットマネジメントについて】

商号：岡三アセットマネジメント株式会社

岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長（金商）第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

### 【投資リスク】

- 投資者の皆様のご投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様にご帰属します。ファンドは、国内の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。
  - ファンドの主な基準価額の変動要因としては、「株価変動リスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」があります。
- ※基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

### 【その他の留意点】

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
  - 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
  - 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
  - 取引所における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込みの受付を取消すことがあります。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご参照ください。

### 【お客様にご負担いただく費用】

<お客様が直接的に負担する費用>

- 購入時
  - 購入時手数料：購入価額×購入口数×上限3.3%（税抜3.0%）  
詳しくは販売会社にご確認ください。
- 換金時
  - 換金手数料：ありません。
  - 信託財産留保額：ありません。

<お客様が信託財産で間接的に負担する費用>

- 保有期間中
    - 運用管理費用（信託報酬）  
：純資産総額×年率1.54%（税抜1.40%）
  - その他費用・手数料
    - 監査費用：純資産総額×年率0.011%（税抜0.01%）
  - 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等を信託財産でご負担いただきます。（監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。）
  - お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

## 販売会社

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融 商品取引業 協会
<b>(金融商品取引業者)</b>					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○		○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
益茂証券株式会社	北陸財務局長(金商)第12号	○		○	

<本資料に関するお問合わせ先>

フリーダイヤル **0120-048-214** (9:00~17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)